

日本教師教育学会第32回研究大会  
課題研究2「大学教育と教師教育」

2022.9.18@秋田大学(オンライン)

「今後の教師教育の「グランドデザイン」(素案)」へのコメント  
ーカリキュラムの観点からー

松下 佳代  
京都大学高等教育研究開発推進センター  
matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

# 指定討論の視座

- 大学教育研究者（主に能力論、学習論、評価論）として
- 日本学術会議「参照基準（教育学分野）」の作成に携わった者として



(松下編, 2010)



(松下他編, 2015)

(Matsushita ed., 2017)



(松下, 2007)

(松下・石井編, 2016)



(松下, 2021)



# 論 点

---

- 「グランドデザイン」とは？
- 「コンピテンシー・ベース」の意味
- 他の専門職(特に医学分野)との比較
- 参照基準との関係



# 「グランドデザイン」とは？

# 「グランドデザイン」の要件

---

- 「グランドデザイン」とは？
    - = 長期にわたって遂行される大規模な計画
  - 日本の教育政策において
    - 文部科学省：「**2040**年に向けた高等教育のグランドデザイン」  
(中教審答申, 2018.11.26)
      - 長期: ある時点を定めてバックキャストで策定
        - 「2040年という22年先を見据えて、そこから逆算的に考え、必要な提言を行った」
      - 大規模: 社会変化と高等教育の関係／質保証／18歳人口の減少を踏まえた規模や地域配置／各高等教育機関の役割／投資[予算]
- 教師教育の「グランドデザイン」とは？



# 「コンピテンシー・ベース」の意味

# 「コンピテンシー・ベース」のカリキュラムへの転換

- 基本的な考え方①(鹿毛報告)
  - 「現行の「コンテンツ・ベース」(項目内容中心)の教職課程を「コンピテンシー・ベース」(力量形成中心)のカリキュラムへと転換する必要がある」
- 「コンピテンシー・ベース」と教師教育の関係
  - CBE(Competency-based education)そのものの始まりは、米国の高等教育において1968年、米国教育省の資金援助により10校の大学が小学校教員向けの研修プログラムを開発したことに遡る(Nodine, 2016)
  - CBEの定義: “a data-based, adaptive, performance-oriented set of **integrated processes** that facilitate, measure, record and certify within the context of **flexible time** parameters the **demonstration** of known, explicitly stated, and agreed upon **learning outcomes** that reflect successful functioning in **life roles**” (Spady, 1977, p. 10)
  - ➔ 今回の「コンピテンシー・ベース」の新しさはどこにあるのか？
  - ➔ 「コンテンツ・ベース」との関係は？

# 教育におけるコンピテンシーの本質的特徴とは

- 2000年代以降のコンピテンシー研究をふまえて

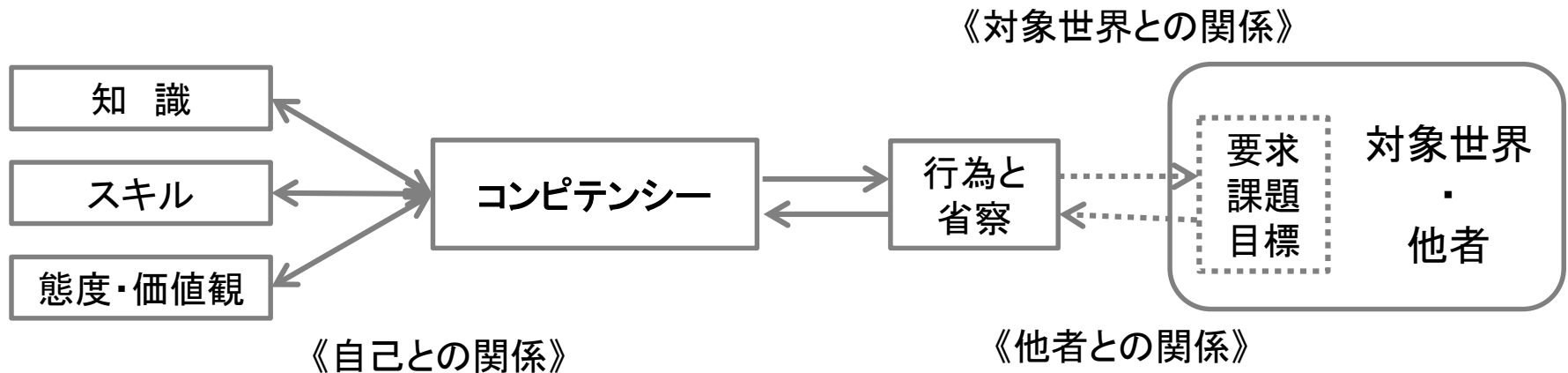
- 1. 行為志向であること
- 2. ホリスティックで統合的であること
- 3. 要求に応えるものであること
- 4. 生涯を通じて発達・変容するものであること

(松下, 2021)



# コンピテンシーの三重モデル

(松下, 2021)



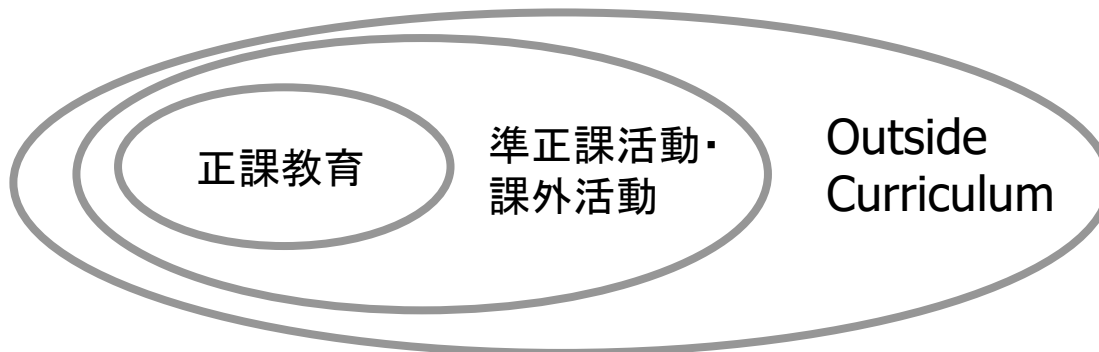
## ■ コンピテンシー

=ある要求・課題・目標に対して、内的リソース(知識、スキル、態度・価値観)を結集させつつ、対象世界や他者と関わりながら、行為し省察する能力

## ■ 三重モデルの特徴

- ①3つの要素(知識、スキル、態度・価値観)
- ②3つの関係性(対象世界との関係、他者との関係、自己との関係)
- ③3つの層(知識・スキルなどの層、コンピテンシー(狭義)の層、行為と省察の層)

- コンピテンシー … 時間的・空間的な境界をこえるという性格
  - 時間的境界をこえる
    - 教員養成 (pre-service ed.) → 現職教育 (in-service ed.)
  - 空間的境界をこえる



→ どこまでをグランドデザインの範囲とするのか？

\* コンピテンシーの育成の際限のなさをどう扱うか？



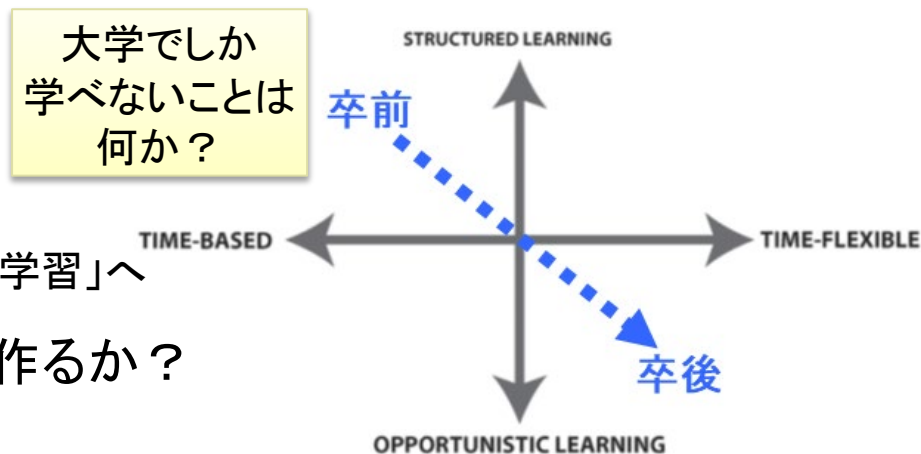
# 他の専門職(特に医学分野)との比較 参照基準との関係

# 教員養成と現職教育

- CPD (Continuing Professional Development) の領域
  - ← 「生涯を通じて発達・変容する」というコンピテンシーの特徴
  - 教師、医療人、技術士など
  - 教師：教員養成 (pre-service ed.) と現職教育 (in-service ed.)  
医師：卒前教育と卒後教育

- 共通する課題

- 両者をどうつなぐか？
  - 「時間ベース」から「非時間ベース」へ
  - 「構造化された学習」から「機会をとらえた学習」へ
- その成長を支えるコミュニティをどう作るか？



- 差異は？ (教師教育の固有性は？)

# 教育学分野の参照基準

## ● 参照基準の範囲をどうするか？

- (a) 教育研究に関する教育課程 ← 広田試案、Subject Benchmark Statement
- (b) 教員養成に関する教育課程

## ● 本参照基準

- (a)を中心に作成されているものの、両方を含み、両者の関係を問い直すもの  
「教職課程を学術的に十分な知見に基づくものとして実現するために、教職課程を教育学にとって不可欠な要素として位置づけ、その本来的役割の一つとして想定することが必要である」(p.18)

## ● 教育学に固有の特性

- (1) 人間と社会の可変性への関心
- (2) 研究アプローチの多様性(規範的、実証的、実践的)
- (3) 技術知と反省知の両面性
- (4) 教育学の再帰性
- (5) 他の諸学との協働

# ● 教育学の研究アプローチ

---

## ● 規範的アプローチ

- 教育を通して、何が、どのように実現されるべきかを考察

## ● 実証的アプローチ

- 教育が、事実として、どのように行われてきたか、行われているか、行われていくかを、実証的に記述・説明

## ● 実践的アプローチ

- 教育の対象となる人間、あるいは教育という行為(行動)・活動・制度を、その可変性への信頼のもとに、いかにして、現在の状態からより望ましい状態に変えていくかを検討・構想

・・・教師教育では、まさにこの3つの研究アプローチの統合が必要とされる  
とりわけ規範的アプローチ(何がよい教育なのかを問い続ける)に医学分野との違いが表れる

→グランドデザインでは教師の専門職としての特徴をどう捉えているのか？

ご清聴ありがとうございました



松下 佳代  
matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp